

# デーヴォ ガイド



**2024.10/28-11.3**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

5:1 キリストは、自由を得させるために私  
たちを解放してくださいました。ですから、  
あなたがたは堅く立って、再び奴隷のくびき  
を負われないようにしましょう。

5:2 よく聞いてください。私パウロがあなた  
がたに言います。もしあなたがたが割礼を受  
けるなら、キリストはあなたがたに、何の益  
ももたらさないことになります。

5:3 割礼を受けるすべての人に、もう一度  
はっきり言うておきます。そういう人には律  
法全体を行う義務があります。

5:4 律法によって義と認められようとしてい  
るなら、あなたがたはキリストから離れ、恵  
みから落ちてしまったのです。

5:5 私たちは、義とされる望みの実現を、信  
仰により、御霊によって待ち望んでいるの  
ですから。

5:6 キリスト・イエスにあって大事なのは、  
割礼を受ける受けないではなく、愛によって  
働く信仰なのです。

5:7 あなたがたはよく走っていたのに、だれ  
があなたがたの邪魔をして、真理に従わない  
ようにさせたのですか。

5:8 そのような説得は、あなたがたを召され  
た方から出たものではありません。

5:9 わずかなパン種が、こねた粉全体をふく  
らませるのです。

5:10 あなたがたが別の考えを持つことは決し  
てないと、私は主にあって確信しています。  
しかし、あなたがたを動揺させる者は、だれ  
であろうと、さばきを受けます。

5:11 兄弟たち。もし私が今でも割礼を宣べ伝  
えているなら、どうして今なお迫害を受けて

いるのですか。それを宣べ伝えているなら、  
十字架のつまずきはなくなっているはずで  
す。

5:12 あなたがたをかき乱す者たちは、いっ  
そのこと切除してしまえばよいのです。

私たちは「自由を得させるため」というイエス  
様の目的によって救われました。死からの自由、  
罪の誘惑からの自由、サタンからの自由、そして  
律法主義からの自由です。自分の頑張りややって  
きたと自負する人は、必ず挫折したときに自分を  
責めることになります。または人に責任転嫁する  
ようになります。因果応報の価値観なのです。

神の前の自由な生き方の動機は愛です。「愛に  
よって働く信仰」が大切です。ですからイエス様  
を愛する思いが尊いのです。そのためには十字架  
の救いを本当に心から感謝しているかどうかが鍵  
です。そしてそのためには自分の罪深さを知る必  
要があるのです。

きよめが忍罪から始まって、神への愛にいたる  
のはそれゆえです。これらは螺旋階段のようにそ  
れぞれが高められて、全体も高められてゆくので  
す。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願  
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど  
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 29日 火曜

### ガラテア



5:13 兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。

5:14 律法全体は、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という一つのことで全うされるのです。

5:15 気をつけなさい。互いに、かみつき合ったり、食い合ったりしているなら、互いの間で滅ぼされてしまいます。

5:16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。

5:17 肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているのです、あなたがたは願っていることができなくなります。

5:18 御霊によって導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。

5:19 肉のわざは明らかです。すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、

5:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、

5:21 ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のもです。以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

5:23 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。

5:24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉

を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。

5:25 私たちは、御霊によって生きているのなら、御霊によって進もうではありませんか。

5:26 うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりしないようにしましょう。

一般的にも自由と身勝手とは違います。聖書でも自由とは欲望のままに生きることはありません。むしろ欲望に支配されている状態から自由、すなわち欲望によって本当の生き方が出来ない状態から、欲望に支配されずに生きられるようになることが自由です。

欲望や身勝手によって生きるなら、「隣人を...愛する」ことなどできませんし、むしろ「互にかみ合っ」て生きようになってしまうのです。

そのような本当の自由を手に入れるのには聖霊の力が必要です。「聖霊は肉に逆らう」から、すなわち肉の欲望に打ち勝つ力があるからです。聖霊は私たちの心の底から変えて、喜んで愛と平和と真実を求めるようにしてくださるのです。御霊の実である「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実」を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 30日 水曜

### ガラテア



- 6:1 兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。
- 6:2 互いの重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を成就することになります。
- 6:3 だれかが、何者でもないのに、自分を何者かであるように思うなら、自分自身を欺いているのです。
- 6:4 それぞれ自分の行いを吟味しなさい。そうすれば、自分にだけは誇ることができても、ほかの人には誇ることができなくなるでしょう。
- 6:5 人はそれぞれ、自分自身の重荷を負うことになるのです。
- 6:6 みことばを教えてもらう人は、教えてくれる人と、すべての良いものを分かち合いなさい。
- 6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。
- 6:8 自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊に蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。
- 6:9 失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取ることになります。
- 6:10 ですから、私たちは機会があるうちに、すべての人に、特に信仰の家族に善を行いましょう。

るところです。ただし、自分は正しいというような言い方では、相手に伝わりません。単に感情的に受け入れられないというだけでなく、それは自分の視点でしか見ていないということが伝わるからでしょう。神様の視点で教えるのであれば、教える本人も聖なる神様の前で謙っているはずですから「柔和な心」が大切なのです。そして「自分自身も誘惑に陥らないように」という警告が出てくるのです。

また「人にはそれぞれ自身の重荷がある」ので、人と比べたり、自分で基準を決めたりして、“自分はよくできている、よくやっている、正しく歩んでいる”というような自己満足をしなないようにしましょう。大切なのは、主が与えてくださった使命を果たし、主の目的を実現しているかということです。また主の共同体の中で、主の愛する人々のために期待に応えているかということなのです。勝手に自分は合格だと思い込まないようにしましょう。

「みことば…を教えてくれる人」は、善き関係によってそれが可能になります。緊張関係や利害関係、対立関係では、主の愛のみことばも歪んで伝わってしまいます。むしろ「良いものを分かち合う」ような関係によって、互いに自由に話せるものです。何より聖霊によって語られることは、聖霊による愛の関係によって伝わります。

人間関係において良い種を蒔けば、必ず良いものをなり取りますから、相手の態度が悪いままでも「失望せずに」、蒔き続けましょう。「善を行い」続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 31日 木曜

### ガラテア



6:11 ご覧なさい。こんなに大きな字で、私はあなたがたに自分の手で書いています。

6:12 肉において外見を良くしたい者たちが、ただ、キリストの十字架のゆえに自分たちが迫害されないようにと、あなたがたに割礼を強いています。

6:13 割礼を受けている者たちは、自分自身では律法を守っていないのに、あなたがたの肉を誇るために、あなたがたに割礼を受けさせたいのです。

6:14 しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません。この十字架につけられて、世は私に対して死に、私も世に対して死にました。

6:15 割礼を受けているか受けていないかは、大事なことではありません。大事なのは新しい創造です。

6:16 この基準にしたがって進む人々の上に、そして神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように。

6:17 これからは、だれも私を煩わせないようにしてください。私は、この身にイエスの焼き印を帯びているのですから。

6:18 兄弟たち。私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。アーメン。

パウロは目が悪かったので、自筆で書くときには大きな字でなければなりませんでした。そのことはむしろ彼の情熱を明かにしました。弱さが人の心を動かすことにもなると信じて、主のみこころを熱心に行いましょう。

割礼とは、古い約束による救いの条件です。しか

しそのような古い条件は、律法も含めて誰も守りきることができないので、実際には救いではなくさばきをもたらすものなのです。それなのに何故「割礼を強制する」のかというと、それは『外見を良くしたい』のであると、パウロは言います。すなわち外見上は「立派な人、立派な信仰」と見られたいのです。

目に見える基準を自分で決めて、“〇〇できるから、〇〇しているから、〇〇していないから”立派だとか、信仰が足りないなどと言う人は、そのような人であるということです。

私たちは自分の行いを誇らないで、「主イエス・キリストの十字架」だけを誇りにしたいものです。そうでなくてはいけません。自分を誇らないこと。それはいつも誠実に意識していなければできないものではありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



# 1日 金曜

## 詩篇

<62> 指揮者のために。エドトンによって。  
ダビデの賛歌。

62:1 私のためしいは黙ってただ神を待ち望む。私の救いは神から来る。

62:2 神こそわが岩わが救いわがやぐら。私は決して揺るがされない。

62:3 おまえたちはいつまで一人の人を襲うのか。おまえたちはこぞって打ち殺そうとしている。城壁を傾け石垣を倒すように。

62:4 実に彼らは人を高い地位から突き落とそうと企んでいる。彼らは偽りを好み口では祝福し心では呪う。セラ

62:5 私のためしいよ黙ってただ神を待ち望め。私の望みは神から来るからだ。

62:6 神こそわが岩わが救いわがやぐら。私は揺るがされることがない。

62:7 私の救いと栄光はただ神にある。私の力の岩と避け所は神のうちにある。

62:8 民よどんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。セラ

62:9 低い者はただ空しく高い者も偽りだ。秤にかけてと彼らは上に上がる。彼らを合わせても息より軽い。

62:10 圧制に頼るな。略奪に空しい望みをかけるな。富が増えてもそれに心を留めるな。

62:11 神は一度告げられた。二度私はそれを聞いた。力は神のものであることを。

62:12 主よ恵みもあなたのもです。あなたはその行いに応じて人に報いられます。

「…ただ神を待ち望む。」「どんなときにも神に信頼」とは強い信仰のように感じます。しかし必ず



しもそうとは限りません。自分ではどうすることもできなくて、また何も頼るものがもうないのです。それは自分の弱さを痛感した人のことばです。

そこには、自分の信仰の強さも弱さもありません。自分の信仰さえあてになりません。ではどうしたら良いのか。それは神を待ち望むこと、神に信頼することです。

信仰とは弱い人のものです。そして弱さに気づける人が強いのです。自分は神に頼むほどの状況ではないと、自分が強いと思える人は、実は弱くもろいのです。

信仰のあり方も含めて、自分の弱さと強さが何であるのかを再認識しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 2日 土曜

### 詩篇

<63> ダビデの賛歌。ダビデがユダの荒野にいたときに。

63:1 神よあなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない衰え果てた乾いた地で私のたましいはあなたに渴き私の身もあなたをあえぎ求めます。

63:2 私はあなたの力と栄光を見るためにこうして聖所であなたを仰ぎ見えています。

63:3 あなたの恵みはいのちにもまさるゆえ私の唇はあなたを賛美します。

63:4 それゆえ私は生きるかぎりあなたをほめたたえあなたの御名により両手を上げて祈ります。

63:5 脂肪と髓をふるまわれたかのように私のたましいは満ち足りています。喜びにあふれた唇で私の口はあなたを賛美します。

63:6 床の上であなたを思い起こすとき夜もすがらあなたのことを思い巡らすときに。

63:7 まことにあなたは私の助けでした。御翼の陰で私は喜び歌います。

63:8 私のたましいはあなたにすがりあなたの右の手は私を支えてくださいます。

63:9 私のいのちを求める者どもは滅び地の深い所に行くでしょう。

63:10 彼らは剣の力に渡され狐の餌食となるのです。

63:11 しかし王は神にあって喜び神にかけて誓う者はみな誇ります。偽りを言う者の口が封じられるからです。

「水のない、砂漠の衰え果てた乾いた地で、私のたましいは、あなたに渴き…」とあります。そのような状況では当然、水に渴いているはずですが、信



仰者は違うのです。私たちが求めるのは神御自信です。なぜなら、水も恵みも神様から来るからです。神様を求めずして、必要だけ求めても意味がないのです。解決を求めても意味がないのです。

それゆえ詩人は「あなたの恵みは、いのちにもまさる」と告白しているのです。私たちも自分のいのちが誰によって守られているのかを、常によく考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



<64> 指揮者のために。ダビデの賛歌。

64:1 神よ私が嘆くとき私の声を聞いてください。敵の脅かしから私のいのちを守ってください。

64:2 どうか私をかくまってください。悪を行う者どものはかりごとから不法を行う者どもの騒ぎから。

64:3 彼らはその舌を剣のように研ぎ澄まし苦いことばの矢を放っています。

64:4 全き人に向けて彼らは隠れた所から射掛け不意に矢を射て何も恐れませんが。

64:5 彼らは悪事に凝っています。示し合わせてひそかに罠をかけ「だれが見破ることができよう」と言っています。

64:6 彼らは不正を企み「企んだ策略がうまくいった」と言っています。人の内なる思いと心とは底が知れません。

64:7 しかし神が彼らに矢を射掛けられるので彼らは不意に傷つきます。

64:8 彼らは自らの舌につまずきました。彼らを見る者はみな頭を振って嘲ります。

64:9 こうしてすべての人は恐れ神のみわざを告げ知らせそのなされたことを悟ります。

64:10 正しい人は【主】にあって喜び主に身を避けます。心の直ぐな人はみな誇ることができます。

悪者は悪を行うのにすぐれています。時に信仰者も太刀打ちできないときがあります。あのダビデ王でもそのように感じて悩んだことがあったのでしょうか。しかし「神は、矢を彼らに射掛けらる」と確信しています。

ですから「正しい者」でいられるのです。最も強

い方である主が「正しい者」のために戦ってくださるからです。世の人が不正や悪で成功し、勝利しているように見えますが、そのような価値観に惑わされないようにしましょう。主にあって喜びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

